

安定した地位を捨て、
45歳で会社を設立

——起業の経緯を教えてください。

島田：私は、ダイハツ前橋製作所現、ダイハツ車体)で、生産技術の仕事に23年間携わりました。その後、「世の中に役立つことをやりたい」と思い、仲間とともに1985年に日本ハイコムを設立しました。自分たちの持っている生産技術の知識とノウハウを活かして、生産技術コンサルタントを始めたのです。

——会社を設立した頃は、「生産技術コンサルタント」という業種は珍しかったのですか？

島田：定款に「生産技術コンサルタント」と書きたかったのですが、そのような業種は認められていなかった。なので困りました(笑)。それでも、なんとか定款には書きまじりました。私は、高度な産業技術を駆使している自動車産業のノウハウを他の産業に応用できると考えたのです。実際に仕事を始めてみると、各業種で必要な専門知識は2割程度なんです。あとの8割は我々が持つ知識とノウハウで対応できました。

我々はゼロから
自動車工場を作ります

——現在の事業内容を教えてください。

島田：コンサルティング事業部、エンジン開発事業部、企画開発事業部、生産技術コンサルタントという3つの部門があります。生産技術コンサルタントとして事業を始めましたが、今では生産施設のエンジニアリング事業まで実施するようになりました。ロボットや治具などハードの配りから、生産準備や管理の指導などソフトの部分まで行いますから、生産ラインの全てをサポートできます。

人のマネをせず、
独自の道を歩んできた

——会社経営の方針を教えてください。

島田：私は、家業ではなく、企業として日本ハイコムを設立しました。ですので、私の子どもが継ぐことはありません。また、「社会的に意義のある仕事をやりたい」というビジョンは設立当初から変わっていません。そして、一番心がけてきたのは人のマネをしないこと。自分たちの考えでやってきたからこそ、独自の地位を確立できたのだと思っています。

また、マネジメント面では社員全員に経営・財務に関するすべての情報を提供しています。経営方針、会社行事についても詳細な説明をして、ビジョンの共有をしています。何事にも「どのような意味があるのか」と社員に考える力をつけてもらい、一人一人がプレイングマネージャーとしての役割を果たせるよう行っています。

——海外での仕事が多いのですか？

島田：社員50名ほどの会社ですが、オーストラリア、韓国、中国に拠点があり、年間の海外渡航費が8000万円を越えます。バックオフィスと私以外の社員全員が海外に出ていること

大手自動車メーカーも認める プロフェッショナル集団

〈オーストラリア、韓国、中国に拠点展開〉

大企業相手にも
対等の立場で
仕事をする

——自動車メーカーは自前で生産ラインを作っているのではないのですか？

島田：そうとは限りません。技術的にトップレベルの自動車メーカーが仕事を依頼してくるのは、我々が生産技術に特化したエキスパートだからです。ゼネラルモーターズやトヨタなどの仕事もしていますが、決して下請けじゃない。我々はプロフェッショナル集団ですから、あくまでパートナーとしての立場で仕事をしています。

——やはり、自動車関連の仕事が多いのでしょうか？

島田：売上からすると自動車に関する仕事が多いのですが、電気、食品、建築、設備機器、医薬品など幅広い仕事をしています。特に設立当初は意識して自動車以外の仕事をしまし

企画開発事業部では生産技術を活かした製品を開発しており、食品の解凍、殺菌、調理、乾燥など、従来の方法では出来なかったことを新しい技術(マイクロ波)で対応しています。

——御社の強みは何でしょうか？

島田：おそらく自動車メーカー以外で自動車を作ることができているのは我々ぐらいじゃないでしょうか。エンジン、組み立て、塗装、検査など自動車に関するすべてのラインを設置して管理できますから、自動車工場全体を作れるのです。今では海外のエンジニアリング会社もあり、現場に入り込んで、人材のトレーニングまでできる会社はうりしかありません。

があるぐらいです(笑)。海外での仕事は苦勞も多いですが、現地の文化や人に触れられる楽しさがあります。海外の文化や生活に興味のある人には理想的な仕事でしょうね。

——新卒採用は11年前から行っているそうですが、どのようなタイプの人が仕事で伸びますか？

島田：前向きで好奇心がある人が伸びますね。例えば、すぐにモノを片付けたりする人。逆に「そんなことはオレの仕事じゃない」というような動きの悪い人は伸びません。私は成績のよい学生ではなかったのですが、とにかく仕事には前向きに取り組みました。常に率先して仕事をし、ときには社内のもめ事に割って入っていたぐらいです(笑)。

——どのくらいの期間で、第一線で活躍できるのですか？

島田：我々はベテランと若手の混成チームで1つのプロジェクトにあたります。チームの中で若手はベテランから経験やノウハウを学び、ベテランは若手から新しい技術について学びます。もちろん個人差はありますが、入社3年目でオーストラリアとマレーシアの現場から引張りだこになつている人もいますよ。

自分がやりたい仕事を
徹底的に考えてほしい

——今後の会社のビジョンを教えてください。

島田：今後は企画開発事業を伸ばして、オリジナルの製造装置も作っていきたい。その1つが冷凍エビなどを解凍する食品向けマイクロ波加熱装置。この装置を使えば鮮度を保つたまま解凍ができます。食料自給率の低い日本にとって冷凍・解凍技術は重要ですから、社会に貢献できる製品だと思っています。つまり単に売上げを追うのではなく、そのような視点で新製品の開発を進めていきます。

——最後に学生へのアドバイスをお願いします。

島田：会社の規模や名前就職を決めないほうがいいと思います。それだけでは、会社の選択範囲が狭くなってしまうから。まず「自分がやりたい仕事は何なのか」を徹底的に考えてから会社を選んでほしいですね。

前向きで好奇心のある人材は伸びる。
まず自分の頭で考えて、
すぐに体を動かせ。



1.4. 若手社員、一人一人がプレイングマネージャー 2. 若手とベテランが協力して課題に向かう 3. 笑顔であいさつが交わされる明るい職場

会社設立から現在まで、21期連続で黒字経営を続ける日本ハイコム。生産技術に特化してグローバルな展開を進める同社は、自動車の生産技術をベースとし、あらゆる業種の生産ラインを作り上げるプロフェッショナル集団である。生産技術コンサルタントの先駆けである社長の島田政彦に話を聞いた。

日本ハイコム 代表取締役 島田 政彦

しまだ まさひこ

Profile 島田 政彦 (しまだまさひこ)

1940年、栃木県生まれ。1963年、芝浦工業大学金属工学部を卒業後、ダイハツ前橋製作所(現・ダイハツ車体)に入社。自動車の車体などの生産ラインを担当し、生産技術の責任者を務める。1985年、日本ハイコム(株)を設立して代表取締役役に就任。高度な生産技術の経験と前向きな行動力で、同社を設立から現在まで21期連続黒字に導く。

※ 生産技術
研究・開発された製品を量産するために、設備や製造条件、作業方法、原材料まで含めて検討し、高品質、低コスト、短時間で生産することを目指す技術体系。

※ 治具
精密機械をはじめ自動車、家電製品などの部品を製造するために使用される、特殊で専門的な工具や基準の総称。

- 趣味……………読書、麻雀
- 乗っている車……………トヨタ ラブ4
- おススメ本……………「GOAL 2」
- 家族……………娘2人
- 年収……………3000万円
- 今までに訪れた国……………25カ国
- 座右の銘……………苦、集、滅、道
- 今日の財布の中身……………10万円
- 好きな食べ物……………肉類
- 嫌いな食べ物……………なし

The Management Data File 経営者データファイル

- お名前……………島田 政彦
- 生年月日……………1940年11月2日
- 出身地……………栃木県 生まれ
- 身長……………169cm
- 体重……………71kg
- 平均睡眠時間……………4、5時間
- 平均起床時間……………午前7時

会社概要 日本ハイコム株式会社

所在地 ● 群馬県前橋市石倉町5-14-18
設立 ● 1985年(昭和60年)9月 資本金 ● 1,200万円
事業内容 ● 生産技術に関するコンサルティングとエンジニアリング事業、企画開発事業 従業員数 ● 50名
事業所 ● 群馬県(本社)、大阪府、オーストラリア、中国
関連会社 ● 株式会社テクノマート、海可姆機電産品(上海)有限公司、上海海昇機電科技有限公司(現地法人)、KOREA HIGH COMM COLTD.(韓国)
URL ● <http://www.highcomm.co.jp>



就職情報は
コチラ